

JAとまこまい広域

SANSAN
光り輝く

No.240 CONTENTS

- 01 特集 準組イベント「秋のいも掘り体験」実施
3年ぶりに准組合員と交流を図る
- 03 カメラレポート
- 07 JAとまこまい広域 加工馬鈴薯生産部会
(安平地区)生産振興特集
カルビーポテト株向け馬鈴薯と一緒に作りませんか?
- 08 【穂別】JAとまこまい広域産食用南瓜の受入開始
JAとまこまい広域南瓜生産部会穂別支部
・全支所で組合員訪問を実施
組合員の意見を次期JAプランへ反映
- 09 ・理事会報告
・厚真1号倉庫レンガ払い下げについて
- 10 期待の農力 宮崎晃行さん
- 11 ワンポイント営農情報
- 12 あぐり講座
- 13 JAからのお知らせ
- 14 JAグループ配信

裏表紙 新登場!農業者賠償責任共済 NEWファーマスト



厚真町軽舞地区の折坂泰宏さんが作付けする1輪仕立てのマム(洋菊)。品種名はマグナ。真っ赤な色で主にお盆などの供花として使用するが、近年は用途がバラエティー豊かでアレンジメントなどでの使用も増えている。



▲いも掘り体験に参加していただいたご家族



▲小さなお子さんも一緒に掘り取り

き捨て一心不乱に袋に詰め込んでいた。今回初めて参加したという准組合員の方は「いつも職場の方が参加していて話は聞いていて興味があり今回参加しました。なかなか要領が掴めなく袋をいっぱいにするのに苦労した」と話してくれた。また当産地の氷室メーカーイン(氷の室で約半年寝かせることでデン紛が糖に変わり甘味が増す)にも興味を持つていただき「来年買わせていただきます」と話してくれた。

今年収穫されたメーカーインは、一般的な市場販売のほか当JA施設で11月頃から保管され「氷室メーカーイン」として5月の「ゴールデンウイーク」前後にAコープ厚真店や苫小牧市内のホクレンショッピングセンターにあるホクレンの杜などで販売される。

准組イベント「秋のいも掘り体験」実施 3年ぶりに准組合員と交流を図る



圃場で参加者の方々と(厚真町)

同イベントは、農業体験を行つことで農業への理解伸長とJA事業を利用して頂くファンの拡大、准組合員との交流を図ることを目的に企画され今年で5度目の開催を迎える。募集定員の80名を上回る184名の応募の中から8月1日に開かれた抽選会で当選者が決まった。

行動制限をしない初めての大型連休を迎えた道内でも感染者数が高止まりをみせる中、感染拡大防止として参加人数を減らすなど規模縮小したほか、現地圃場までのバス移動においても乗車率を50%未満に抑えるなど感染対策を講じての開催となつた。

いも掘りの圃場に駆け付けた富田広幸組合長は「皆さまの生活にもコロナ禍による大きな影響が表れています。一次産業も同様にコロナ禍による打撃を受けている中で、当JAが目指す都市と農村が共生する豊かな地域社会の実現に向けて貢献していきたいと思っております。人との接触が危惧される状況下ではありますが、本日はご参加いただき誠に有り難うございました」と挨拶した。

当日は朝から生憎の雨模様だったが、いも掘りが始まると雨がやみ参加者は着込んでいた雨具などを脱いでいただきま」と話してくれた。

今年収穫されたメーカーインは、一般的な市場販売のほか当JA施設で11月頃から保管され「氷室メーカーイン」として5月の「ゴールデンウイーク」前後にAコープ厚真店や苫小牧市内のホクレンショッピングセンターにあるホクレンの杜などで販売される。

J Aとまこまい広域は8月27日、厚真町の鰯沼地区にある工藤英暢さん(58歳)の圃場で3年ぶりに准組合員向けイベントの「秋のいも掘り体験」を開催した。



▲青年部によるかき氷販売は子どもに大盛況

7月30・31日、厚真町表町公園で「第50回あつま田舎まつり実行委員会」が開催された。第48回と第49回が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となっていたことから3年ぶりの開催となった。新型コロナウイルス感染症拡大防止として、入口を一ヶ所とし入場する際には検温と手指消毒に加え入場受付シートの記入のほか、例年は厚真町にある企業などが集まりパレード田舎まつり音頭が行われていたが密を防ぐ観点から中止とするなど様々な感染対策を講じて行われた。

JJAとまこまい広域からは、青年部厚真支部とAコーポが出店。青年部はジンギスカンや野菜のほかにビール、Aコーポはエビとイカをメインに地酒のあつま川などを提供した。同JJA青年部厚真支部員は「今、麦収穫などでとても忙しく部員が例年に比べると少ないが、厚真町のイベントということで何とか参加した」と話す。

1日目では、自衛隊第7音楽隊の吹奏楽演奏や厚真町出身のシンガーソングライター小寺聖夏さんの歌声が届けられた。ほか、夜には花火が打ち上げられた。2日目には、幌内神楽(岩手県からの入植者)が伝えた獅子頭と神樂舞を基本とし豊穣と厄払いを祈願する舞が幌内神楽保存会によって披露され、最後には鳥羽一郎氏をはじめとする有名演歌歌手が歌声を披露し、第50回のメモリアルとなるあつま田舎まつりは盛会裏に幕を閉じた。

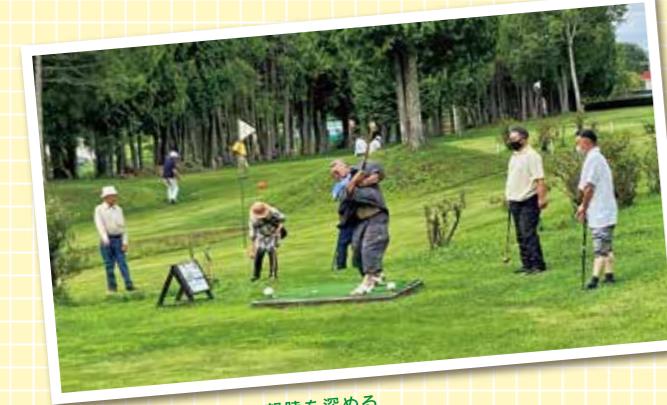


8月6日、穂別支所選果場にて「穂別支所生産者交流会」が開催された。この交流会は組合員相互及びJJA役職員と交流することにより、地域農業の活性化とJJA事業の利用度向上を図ることを目的として開催しており、組合員・JJA役職員合わせておよそ80名が参加した。

交流会の前半で、町内の高校の体育館とパークゴルフ場にて親睦球技大会が開催され、ミニバレーとパークゴルフの2種目。

種目が行われた。それぞれの競技に分かれた参加者は、競いながらも和やかな雰囲気で競技を行った。

球技大会終了後に行われた生産者交流会では、球技大会の表彰も行われ、ミニバレーでは最優秀選手賞に紀藤清春さん(11歳)、優秀選手賞に丹羽誠さん(36歳)が選ばれた。また、パークゴルフの男性部では山中光治さん(66歳)、女性部では宮崎晴美さん(65歳)がそれぞれ第1位に輝いた。



厚真

50th Anniversary

あつま田舎まつり3年ぶりに開催

穂別

穂別支所生産者交流会

地域農業の活性化にむけて組合員・役職員が交流



▲白老牛肉販売コーナーの様子

前から各コーナーに長蛇の列ができ、販売開始の合図を待つお客様で賑わった。当日はあいにくの曇り空だったが開始用意した牛肉は吉田隆三氏が出荷したA5ランクの白老牛。テント内のショーケースには自玉商品のステーキ用ヒレ肉や焼肉用の商品が大量に陳列された。農産物コーナーにも大人気のメロンやスイカ、トマトなどが陳列された。定時になりよいよ販売が開始される

と、号令を待っていたお客様は目当ての商品へ一直線に向かつていった。販売開始から絶え間なくお客様が来場され、1時間半後には白老牛肉コーナーの全商品が売り切れとなつた。農産物コーナー、ハンバーグやおふくろ味噌などの加工品コーナーも売れ行き好調で、フェア終了予定時刻とほぼ同時に全商品が完売となつた。

白老牛を購入されたお客様は「売り場担当の人に白老牛を焼肉やステーキ以外でどういう風に食べたらよいのか聞くと、色々な提案してくれるので毎年楽しんでいます。今回も色々な話を聞くことができるよかったです。冬にもフェアがあると聞いてるのでまた来ようと思います」と話してくれた。

会場には多くのお客様が来場され、皆笑顔で会場を後にした。

8月6日(土)、JJAとまこまい広域白老支所駐車場で毎年恒例の白老牛農産物フェアが開催された。

白老牛農産物フェアは特産品の消費拡大や商品のPRを目的とし、毎年8月と12月に開催されている。

トコーンの収穫が本格的に始まった。

スイートコーンは気温の上昇とともに甘味が落ちる為、収穫は早朝4時半頃から行われている。

27haの生産者で約240haの加工用スイートコーンを作付しており、収穫後は株モリタンや日本食品製造(資)、クレードル興農株などへ出荷され、冷凍食品や缶詰となる。

早来

収穫後すきこみ土質改良にも活用

加工スイートコーン収穫始まる



早来支所では8月9日、加工用スイートコーンの収穫が本格的に始まった。スイートコーンは気温の上昇とともに甘味が落ちる為、収穫は早朝4時半頃から行われている。

27haの生産者で約240haの加工用スイートコーンを作付しており、収穫後は株モリタンや日本食品製造(資)、クレードル興農株などへ出荷され、冷凍食品や缶詰となる。



スイートコーンは根を深くまで伸ばしきれることで、緑肥効果で土質改良に一役買うこととなる。よって、輪作体系の中では小麦や甜菜の前作に加え、豆類や小麥の後作に組み入れられることが多い。今年の作柄について担当者は、「5月の播種から6月中旬までは雨不足で干ばつ気味に推移したが、6月下旬から7月の適度な雨により生育は回復し、全体的に順調に経過した。しかし、平年より若干少ない収量を見込んでいた」と話した。収穫は9月上旬まで行われる。



表彰式終了後は、七輪を囲みながら親睦会が行われ、終始賑やかな雰囲気の中、交流を深めることができた。

【穂別】とまこまい広域産 JAとまこまい広域南瓜生産部会穂別支部

8月8日より、むかわ町穂別地区の市場向け生食用南瓜出荷が始まった。

JAとまこまい広域南瓜生産部会(清瀬利一部会長)では、えびすを主軸に味平、恋するマロン等の品種を作付しており、関西・中国・四国地方を中心に出荷される。今年度の穂別地区の作付面積は、過去最高の299.4haとなっており、その内、生食用南瓜は約140haの出荷を計画している。

清瀬部会長は「播種から収穫までの天気の影響により、生育に多少のばらつきはみられたが、各生産者が状態の良いものを見極め出荷しているため、消費者にはおいしい南瓜が届け



▲目慣らしの様子

られる。広域産の南瓜をたくさんの人々に味わってもらいたい」と話す。

また、4日には目慣らし会を穂別支所選果場にて実施し、JA職員から収穫・選別・出荷の注意点について説明するとともに、見本の南瓜を見ながら規格などについて生産者と確認した。

当部会穂別支部では今年度取扱数量約4,250t、販売高435,750千円を目標に9月上・中旬をピークに10月中旬頃までリレー出荷が続く。



▲出荷された南瓜

全支所で組合員訪問を実施 組合員の意見を次期 JAプランへ反映

JAとまこまい広域は8月4日の穂別支所を皮切りに組合員訪問を各支所で実施し、23日の白老支所を最後に終了した。

金融共済事業収益が低下しているなか、農協事業の長期シミュレーションの伝達に加え次期JAプラン策定の検討事項の意見聴取のほか、組合の存在意義に対する理解浸透、JAを利用することによる経済的な効果などJAの理解促進に取り組み事業結集に繋げることを目的に開催した。

この訪問ではJA運営に対する要望や意見が多く挙げられた一方、一昨年から続く新型コロナウイルス感染の影響で農畜産物の消費や販売価格は不安定であることや、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で燃油価格や粗飼料・肥料の高騰に円安が拍車をかけるなど、農業を取り巻く環境は厳しさが増していることから、今後の営農に対する不安を口にする組合員が多数いた。

当組合の設立20周年事業の一環で、入植から同一家系で100年以上にわたり営農を続ける農家に対して、地域の模範となる経営者とその家族の功績を称えることを目的に震災木で作られた楯の贈呈が合わせて行われた。



▲組合員の意見聴取の様子(厚真町)



▲百年農場の楯を受け取る厚真町の池川勝利さん

J.A.とまこまい広域 加工馬鈴薯生産部会(安平地区) 生産振興特集 カルビー ポテト(株)向け馬鈴薯を 一緒に作りませんか?



昨年3月、JAとまこまい広域加工馬鈴薯生産部会(安平地区)が中道幸夫会長をはじめとする会員10名で発足した。

当JA管内での加工馬鈴薯の生産は平成29年から始まり、今年で6年目を迎える。安平地区だけではなく厚真地区でも生産しており、来年からは穂別地区でも生産が予定されている。

昨年は6戸の生産者で約20haを作付け。およそ820tを出荷し、平均反収は約4,000kgであった。今年は1戸増加し7戸の生産者で約35haを作付けしている。なお、当JA管内では、晩成品種の「きたひめ」と早生品種の「オホーツクチップ」を主力品種としている。

今年7月には、部会として茨城県と栃木県で先進地視察研修を実施し、収穫作業や倉庫前選別ラインなどの生産現場と、カルビー ポテト(株)宇都宮支所での原料検査内容などを視察しており、今後の生産振興と産地形成を模索している。オホーツクチップなどの早生品種であれば9月上旬から収穫可能で、小麦の前作として作付け実績がある。また甜菜などの他品目からの作付け転換も含めて、輪作体系の1つとしてご検討頂きたい。

一方、カルビーグループでも、国産馬鈴薯の使用拡大を図り、国産原料100%を目指すとともに、北海道産の輸出にも挑戦していきたいとしており、そのためには北海道で4万tの増産を必要としている。また、契約生産者の皆さんに持続可能な農業に取り組んで頂くために、「使用する馬鈴薯を2030年にジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種に100%切り替える」と内外に宣言した。ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種への切替え拡大は「きたひめ」や「オホーツクチップ」、自社開発の「ぼろしり」などが牽引しているが、病気に強く多収で比重も高い新品種の登場も数年後に控えている。昨年8月、カルビーとホクレンは包括連携協定を締結し、その主な内容としては、馬鈴薯の安定供給と種馬鈴薯の供給体制の強化、栽培技術や農業資材の開発で、北海道農業の成長と発展に貢献していくとしている。



▲令和元年当JA産加工用馬鈴薯使用の期間限定ポテトチップス発売

令和元年には安平町産加工馬鈴薯を使用したご当地ポテトチップス(ザンギ味)が数量・期間限定で発売されたこともあり、今後もこのような企画を期待したい。

部会としては、生産振興を図るべく活動中で、カルビー ポテト(株)向け馬鈴薯を作る生産者を1戸でも多く、また、面積も1反でも多く増やしたい。現状ではコントラクター組織はないため、プランターやハーベスターなどの初期投資は必要になるが、生産者間での作業受委託の斡旋も可能であることから、ぜひご検討して頂きたい。



さんさんかがやく 期待の農力

日本らしい畜産を目指して



みやざき
宮崎

てるゆき
晃行さん(42歳) 安平町早来新栄

就農のきっかけ

晃行さんは、苫小牧東高等学校から弘前大学(人文学部)へ進学。卒業後、安平町役場に5年勤務。役場勤務時からアイスホッケーの指導を始め、より専門的な知識を身に付け指導したいという気持ちが強くなり、北海道教育大学大学院で体育学を専攻。修了後は、苫小牧工業高等専門学校で体育教師として7年勤務した。平成30年に父の後を継ぐためケーと、最近始めた釣りとスキーナーを楽しんでいる。

大学では農業とは全く関係がない西洋考古学を専攻。晃行さんは決して「農業」に興味が無かつたわけではなく、どちらかという

農業のやりがいと目標

晃行さんは和牛をメインに畑や水田を約30ha作付しており、「同じ地域、同じ作物といった繋がりから、仲間意識が強いところが農業の良い所」と話す。だが農業の苦労は絶えなく「収穫や出産など、年に1回しか結果が見えない」というのが難しく、牛でも性格や体质がそれぞれ異なり、農作物なら同じ品種でも出来に差がついてしまうので、毎年試行錯誤の連続だ

農業をやっていて一番つれしい事はと聞くと「自分の作ったものを美味しいと言つてもらえること」と晃行さんの熱い思いを話してくれた。「飼料米などを有効活用し海外の飼料に頼らない日本らしい畜産を目指して日々奮闘している」と笑顔を見せた。

農業をやっていて一番つれしい事はと聞くと「自分の作ったものを美味しいと言つてもらえること」と晃行さんの熱い思いを話して

理事会報告

令和4年8月9日(火)に総合営農センターで第8回理事会が開催され、次の事項について報告、協議、承認がされました。



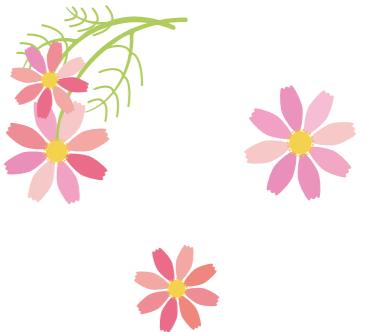
1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 6月末財務報告について
3. 8月1日現在、農作物の作況について
4. 組合員の異動について
5. 固定資産の取得、処分について
6. みのり監査法人期中監査・結果概要について
7. 役員組合員訪問の実施について
8. 生産者組織代表と常勤理事との意見交換会について
9. 秋のいも掘体験について
10. 購買・販売部門の与信審査の結果について



1. 役員道外視察研修について



- 議案第1号 理事へのリース貸付について
議案第2号 紹介規定の一部変更について
議案第3号 福利厚生規程の一部変更について



厚真1号倉庫レンガ 払い下げについて

この度胆振東部地震で崩落した厚真1号倉庫のレンガを払い下げいたします。

なお、払い下げ物品については大きさ・形が不均等のため、「ノークレーム」「ノーリターン」の条件で対応願います。



1. 払い下げ物品

厚真1号倉庫の崩落レンガ
(胆振東部地震時崩壊分)

令和4年10月3日(月)

2. 払い下げ予定日

13:30~16:00
厚真1号倉庫横(厚真町本町80)

3. 払い下げ方法

当日先着順

4. 払い下げ価格

フレコン1パックあたり1,000円
(量にかかわらず)

現地直取

(配送はしません。フレコンに入っていますが非常に破れやすくなっていますので、**パレットを必ずご持参いただき**、運搬はご自身でお願いします)

5. 払い下げ条件

企画管理部管理課 笠原まで
Tel 0145-27-2241

6. 問合せ

